

令和4年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人 高田福祉会	代表者	小菅 貞一	法人・事業所の特徴	平成20年6月に併設するサテライト型特別養護老人ホーム笛吹の里とともに開設。のんびりと穏やかな雰囲気の事業所です。地域交流が広がり恒例となった夏の納涼祭には毎年たくさんの方から参加いただき、多世代間交流の場となっています。法人理念は「笑顔あふれる毎日」。利用される方それぞれの「その人らしい暮らし」「～したい」が少しでも実現できるように、本人の思いを大切に、家族や地域の理解や協力をいただきながら「訪問」「通い」「泊まり」を組み合わせた柔軟な介護サービスの提供で地域での暮らしをサポートします。
事業所名	ケアホーム笛吹の里	管理者	中村 啓一郎		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	2人	2人	1人	1人	1人	0人	5人	0人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所 自己評価 の確認	自立支援のためのプラットフォーム構築	ケアマネジメントの在り方を刷新。 課題分析ツールを導入し、多職種でのカンファレンスを実施。小規模多機能介護計画を常に確認できるようにした。 自立支援に向けた土台は徐々に構築できたが、コロナ禍で実施できなかったこともあった。 利用者のできる力や地域資源の活用により、なんでも屋からは少しずつ脱却できた。	コロナ禍で仕方がない面もある。しっかりと取り組んでいると思う	今年度実施できなかった改善計画を感染状況を見ながら実施していく
B. 事業所の しつらえ ・環境	コロナ禍により外出制限が続くことも想定される為、中庭を整備し、活動できる・過ごせる空間を作る	花壇スペースを新たに整備した以外は時間の確保が難しく畑の作業しか行えず	特になし	利用者が楽しめ、地域の方が訪れたいくなるような中庭を利用者と共に整備
C. 事業所と 地域のかかわり	利用者の特技を活かした手作り品を地域の役に立てる	三郷地区の雑巾作りプロジェクトや三郷地区運動会の担架レースで使用する人形作製など地域の役に立つことができた	介護の相談は地域包括支援センターに話がるのがほとんど。家族から事業所の方に直接相談できるようになればいいと思う	地域のサロンへの参加や広報誌を通じて事業所の役割を発信し、地域に頼られる事業所を目指す

D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える 取組み	感染状況を見ながら地域のサロン等に参加し、住み慣れた地域の方との交流を図る	コロナ禍で参加できず	今年は地区運動会に見学だけでなく参加してみたい 地域のサロンや認知症カフェに施設の利用者も参加してもらえるとありがたい	地区運動会や夏祭りなど地域のイベントに参加する 住み慣れた地域のサロンや認知症カフェに参加し、地域の方との交流を図る
E. 運営推進会議を活かした 取組み	運営推進会議を通じて地域のニーズを把握。 運営推進会議での意見を事業所会議にて共有する	運営推進会議録を事業所内で共有。挙げられた意見について必要に応じ、施設の委員会等で検討している	特になし	運営推進会議の検討項目をより具体的な内容にすることで地域の困り事などに活かす
F. 事業所の 防災・ 災害対策	火災、地震、水害の訓練を実施。 防災委員の意識向上を図る	それぞれ1回ずつ実施（水害は3月29日に実施予定） 施設開所以降、初めて地震の訓練を実施。起震車体験で地域の方も参加していただいた。	災害時は近隣の高齢者だけでも施設に避難できるようにしてほしい	災害時に地域の方に対し施設が提供できることを運営推進会議や広報誌、防災訓練を通じて発信する